

英語学習に関する二つの調査

松 下 博 人*

A Report on Two Surveys Concerning English Learning at NIFS in Kanoya

Hiroto MATSUSHITA*

Abstract

The course of study of foreign languages at NIFS in Kanoya has been decided for 1992 as follows : English I (3 units), English II (3 units), English III (3 units), English Conversation I (1.5 units), English Conversation II (1.5 units), English Conversation III (1.5 units), German (3 units), French (3 units). The students are required to take nine units before graduation.

In order to more effectively teach students entering NIFS in Kanoya, it is important to have information concerning their present English ability and their background in English in junior high school and high school. Two surveys have been conducted for this purpose.

The first survey evaluates students attitudes towards learning English. The second survey, a written test of English, measures their ability.

Since English is an international language spoken throughout the world, English instruction at higher institutions should aim at heightening students' reading abilities and communicative competence. In other words, students should be able to use English effectively in the real world.

KEY WORDS : *Survey, Common Factor, Course of Study, Communicative Competence.*

1 序 章

(1) 調査目的

本学では、平成4年度から外国語科目の履修について、次のように決定した。英語Ⅰ（3単位）、英語Ⅱ（3単位）、英語Ⅲ（3単位）、英会話Ⅰ（1.5単位）、英会話Ⅱ（1.5単位）、英会話Ⅲ（1.5単位）、ドイツ語（3単位）、フランス語（3単位）の中から卒業までに、必ず9単

位選択履修することになった。

これらの外国語科目の履修を効果的なものにするためには、中・高校6年間の英語学習に関する意識と英語の学力に関する調査を行い、それらの実態を把握する必要がある。更に、それを参考にして本学における英語教育の学習目標を明確にし、学習法や指導法のより一層の改善を図る必要がある。

このために、新入生に対してI部「英語学習

*鹿屋体育大学 National Institute of Fitness and Sports in Kanoya, Kagoshima 891-23 Japan.

に関する意識調査」とⅡ部「英語の学力診断テスト」を実施した。

(2) 調査の実施

ア 調査対象

調査対象は、本学1年生(176人)とした。「英語の学力診断テスト」は、鹿児島市A高校3年生(84人)にも実施した。

イ 調査実施日

平成4年4月23日(木)一斉に実施した。A高校における「英語の学力診断テスト」も同時期に実施した。

ウ データ処理

「英語学習に関する意識調査」は、質問事項の中で客観的に得られる解答は、そのまま統計処理した。また、エッセー形式で解答が記述されたものについては、KJ法によって、文章を入念に読み分析し、それぞれカードに記入し、次に、それらのカードの中から共通因子を探し、統合し、一つの項目にまとめた。更に、もっとまとめていくこともできるのだが、具体性を欠くことのない程度にとどめた。「英語の学力診断テスト」は、出題の難易を高校2年程度とした。結果については、通過率と誤答の傾向を把握する程度にした。

2 調査結果

I部 英語学習に関する意識調査

1 あなたは英語の学習をいつ頃から始めましたか。

①小学校1年	1	} 16 (9%)
②小学校4年	2	
③小学校6年	13	
④中学校1年	160	

文部省の学習指導要領によると、中学校1年から外国語(英語)を履修することになっている。ところが、小学校から英語を学習した学生が16人(9%)もいる。これは、おそらく塾に通って学習したものと思われる。この傾向は、学習塾の擡頭という社会現象の結果と思われる。

現在、わが国では、外国語教育は中学校で開始されているが、外国語教育は何歳から開始するのが最も効果的であるか、意見の分かれるところである。本当に、中学1年が最適なのだろうか。大脳生理学の知見では、言語習得能力には臨界期があり、それは10歳前後であるといわれている。現に国によっては、例えば、ドイツにおいては小学校5年から外国語教育を開始している。ようやく、わが国においても、文部省の初等教育局長が、次期教育課程審議会で小学校から英語を導入することを検討する方針を明らかにしている。

2 あなたは英語が好きですか、それとも嫌いですか。

①好き	38 (21%)
②嫌い	56 (32%)
③どちらともいえない	82 (47%)

英語の好きな学生が21%、嫌いな学生が32%、どちらともいえないが47%である。松畑⁹⁾が全国の高校生を対象にして1979年に実施した調査によると、英語B(主として進学校、普通科)を履修している生徒の場合、好き 32.3%、嫌い 29.1%、どちらでもない 38.6%であり、英語A(主として職業系高校)を履修している生徒は、全体の中で27.8%が好きで、41.0%が嫌い、31.2%がどちらともいえないとなっている。この松畑の調査に基づいて、普通科系高校と比較すると、好きという学生が、11%少なく、嫌いという学生は、3%多い。職業系高校と比較すると、嫌いという学生は、9%少ないが、好きという学生も6.8%少ない。好き、嫌いの調査からみると、その傾向は普通科系高校よりむしろ職業系高校に類似しているといえる。

3 2で「好き」と答えた人は、次の質問に教えてください。

(1) いつ頃から好きになりましたか。

①小4	1	③中1	16	⑥高1	0	⑨浪人	1
②小6	2	④中2	3	⑦高2	2		
		③中3	5	⑤高3	8		

前畑の調査によると、好きになった時期としては、「中学1年前半」が圧倒的に第1位を占め、続いて「高校1年の頃」が第2位である。本学の新1年生の場合も「中1」であるが、第2位が「高3」である。大学生の場合、中・高時代に部活動や競技大会に明け暮れ、高校1年では、教科・科目の学習に励むというより、競技力向上のために部活動に熱中したと思われる。松畑の調査と違って、高1 0人は本学の特徴といえる。高3で8人が好きになり、第2位であるのは、高校3年になって大学受験の準備をするために、勉強に集中しているうちに、英語に興味を持ちはじめ、好きになったものと思われる。浪人中に興味を持ち、好きになったというのも、この事実を示す証左である。

(2) 好きになった理由は何ですか。1～2つ記入してください。

- | | |
|---|----|
| ①授業が分かるようになったから。(単語力がついた、長文が読めるようになった。) | 11 |
| ②得意科目だった。(できるようになった。点が上がった。) | 7 |
| ③外国(人)に興味をおぼえた。(夏休み外国に旅行した。) | 6 |
| ④先生が良かった。(面白い先生だった。教え方が良かった。) | 5 |
| ⑤授業が楽しかった。(面白かった。) | 5 |
| ⑥違う国の人と話せるといいと思った。 | 4 |
| ⑦教科書の内容が興味あるものだった。 | 3 |
| ⑧会話が楽しかった。 | 1 |
| ⑨塾の先生が好きだったから。 | 1 |
| ⑩受験勉強をしているうちに。 | 1 |
| ⑪全然知らない言葉を学べるから。 | 1 |
| ⑫グローバルな視野に立つ必要から。 | 1 |

松畑の調査によると、「英語を学習することがおもしろいから」が好きになった第1位の理由になっているが、大学生の場合、「授業が分かるようになった」、「得意科目だった。できるようになった。点が上がった。」等授業そのものの在り方や

学業成績のよしあしが、好き、嫌いに比較的大きく影響している。

次に、外国人に興味をおぼえた、「授業が楽しかった」、「教科書の内容が興味あるものだった」、「会話が楽しかった」等人間の感情や情緒に大きく好き、嫌いが左右されることが分かる。

また、学校や塾の先生のパーソナリティに強い影響を受けるということも知っておくべきである。一方、グローバルな面から、つまり異文化理解、国際理解の面から英語学習に関する興味を持つようになった者のは稀有といえる。

高等学校学習指導要領解説(外国語編)⁴⁾の改善の基本方針に「中学校及び高等学校を通じて、国際化の進展に対し、国際社会の中に生きるために必要な資質を養うという観点から、特にコミュニケーション能力の育成や国際理解の基礎を培うことを重視する。」と示されているが、「英語を学習することがおもしろいから」とか「授業が分かるようになった、できるようになった。」からだけでなく、もっとグローバルな視点から英語学習が好きになるよう指導する必要がある。

4 2で「嫌い」と答えた人は、次の質問に答えてください。

(1) いつ頃から嫌いになりましたか。

- | | | | |
|-----|----|-----|----|
| ①中1 | 16 | ④高1 | 19 |
| ②中2 | 7 | ⑤高2 | 4 |
| ③中3 | 10 | ⑥高3 | 0 |

松畑の調査によれば英語Bの方は「高1」が断然トップで、2位以下はほとんど有意な差はない。ところが鹿屋体大の場合、「高1」に次いで、「中学1年」、「中学3年」と三つの山がある。

学生の中で中学校3年で嫌いになるというのが多いのは、部活動と進学の間で心が揺れ動いたものであろう。

高校1年で嫌いになる生徒が多いのは、高校に入学して急に難しくなったり、教師が変わって指導法なども大きな変化を生ずることに起因している。また、中学校と違って、部活動に、より熱心に傾倒していったからであろう。好きになるのも、

嫌いになるのも中1が断然トップだったが、中学1年の入門期の指導は極めて大切である。また、高校英語への入門期として高校1年では、中高連携も考慮するなどして指導の充実を図る必要があると思われる。

これから、更に、大学の大衆化が進むと考えられるが、中・高連携にとどまらず、大学をも含めて、英語教育の在り方が考究されなければならないと思う。

4 嫌いになった理由は何ですか。1～2つ記入して下さい。

- | | | |
|---------------------------------|----|------|
| ①分からなくなってきた。(話せない、読めない。訳ができない。) | 22 | } 64 |
| ②教科書が難しかった。量も多くなった。 | 14 | |
| ③単語、文章が覚えられなかった。 | 13 | |
| ④文法が難しい。覚えるのに混乱した。分からなかった。 | 8 | |
| ⑤授業の速さについていけなかった。 | 7 | |
| ⑥先生が好きになれなかった。 | 6 | |
| ⑦成績が悪かった。(勉強しても成績が上がらなかった。) | 5 | |
| ⑧高校の先生にみはなされた。 | 3 | |
| ⑨外国人と語ったが分からなかった。通じなかった。 | 1 | |
| ⑩転校したため教科書が変わり分からなかった。 | 1 | |
| ⑪先生が頭のよい人に合わせて授業をしたから。 | 1 | |

①, ②, ③, ④, ⑤, の理由によって嫌いになった学生は、64人である。このことからして、英語が学年進行に従って難しく、学習量も多くなり、また、教師の授業ペースが速くなり、授業についていけず、分からなくなると、嫌いになっていったものと思われる。

英語学習に対する好嫌の分かれ目は、一に英語が分かるかどうかにかかっている。「分からない」→「できない」→「やらない」→「おもしろくない」→「嫌い」という進展が考えられる。

次に、⑥, ⑧, ⑪, の10人にみられるように教師のパーソナリティによる影響が大きいということも看過できない問題である。「教師に対する好き嫌い」＝「英語学習への好き嫌い」という等式も外国語学習には、他の教科以上にはっきりと表れるようである。

5 あなたは、これから、どんな目的で英語を学習したいと思いますか。1つ記入して下さい。

- | | |
|--|----|
| ①外人とコミュニケーションしたい。(親しくなりたい。日常会話くらい話せるようになりたい。大会等で外人と会ったら話せたい。) | 63 |
| ②国際化時代に必要だから。活躍したいから。 | 36 |
| ③一般教養として必要だから。(社会人の常識として。社会に必要だから。役立つから。教師になりたいので。スポーツクラブで働きたいので。) | 25 |
| ④海外に行ったり、旅行したりしたとき必要だから。 | 11 |
| ⑤外人に話しかけられたら、こたえられる程度に。 | 10 |
| ⑥海外で仕事をしたい。生活したい。 | 7 |
| ⑦中高でなまけてだめだったので、基礎力をつけたい。 | 6 |
| ⑧英字新聞、外国の本、映画など読めるように、見られるように。 | 5 |
| ⑨単位を修得するために。 | 4 |
| ⑩就職するとき有利だから。将来の仕事に生かしたい。 | 3 |
| ⑪英検など資格をできればとっておきたい。 | 3 |
| ⑫大学院に進むため。 | 3 |
| ⑬自営業をやるので外国からの客に接するために。 | 1 |
| ⑭外人の友達に自由に手紙を書けるように。 | 1 |

平成6年から実施されることになっている学習

指導要領⁴⁾の改善の基本方針によると、「中学校及び高等学校を通じて、国際化の進展に対応し、国際社会の中に生きるために必要な資質を養うという観点から、特にコミュニケーション能力の育成や国際理解の基礎を培うことを重視する。このため、読むこと及び書くことの言語活動の指導がおろそかにならないよう十分配慮しつつ、聞くこと及び話すことの言語活動の指導が一層充実するよう内容を改善する。」とある。学生の英語学習の目的は、まさに、この改善の基本方針と符合するものとなっている。かつて、大学にみられた小説等の講読力でなく、言語能力を育て、異文化理解・国際理解を図ることが、また、大学の英語学習の目的とならねばならないと思う。

6 あなたは、英語学習の分野で、次の中どれを最も身につけたいと思いますか。
読む力 8 (5%) 聞く力 17 (10%)
書く力 4 (2%) 話す力 147 (83%)

前項の学習の目的に「コミュニケーションしたい」、「国際化時代に必要だから」学習したいのだというのが圧倒的多数を占めることを考えると、話す力83%は首肯できる。

それにしても、「話す力」を育てるためには「聞く力」を育てなければならないし、お互いにコミュニケーションするためには、読むことも書くことも重要である。このことを考えると、音声中心の指導をとおして、聞き、話し、読み、書く、4つの技能を総合的に養う必要がある。ただし、従来、読み書くことや文法に英語の指導が傾注しすぎていたことは、反省しなければならない。

7 あなたは、大学の授業に何を期待していますか。英語の授業はこうあって欲しいということをも2つ以上記入してください。

- ①楽しくおもしろい授業。(難しくない、明るい、ユーモアのある、興味をそそるような、魅力ある、活気のある、あきない) 75
- ②実用英語をやりたい。(文法だけでな

- く、役に立つ、読み書くだけでなく聞き話せる力を) 51
- ③分かりやすい授業をして欲しい。(いそがないで、丁寧に、身につくような) 26
- ④中高と違った授業。(中高の形式ばった英語でなく、問題を解くテクニックでなく、日常よく使う、知識を詰め込むのではなく、教師のエピソードや体験を交えて) 13
- ⑤書く英語、訳せる英語を。 12
- ⑥ヒヤリング、と発音を指導して欲しい。 9
- ⑦文化の違いを教えて欲しい。 7
- ⑧基礎を教えて欲しい。 7
- ⑨一方的受け身の授業でなく発表させて。 5
- ⑩会話教材を。 4
- ⑪まちがっても怒らないで欲しい。 4
- ⑫テストをやさしくして欲しい。 4
- ⑬専攻に関係のあるものを。 3
- ⑭外国の雑誌を教材として。(英字新聞) 2
- ⑮単位をください。(とりあえず単位がほしい。) 2
- ⑯出席を重視して欲しい。 1
- ⑰授業を早めに終わって欲しい。 1
- ⑱あてないで欲しい、本を読ませないで欲しい。 1
- ⑲ビデオ教材を利用して。 1

好きになった理由の第1位が「授業が分かるようになったから」であり、嫌いになった理由の第1位が「分からなくなった」であるから、外国語教育の指導理論 (theory) と指導技術 (technic) に基づいた分かる授業、合理的な授業を一番に求めるものと思っていたが、難しくない楽しくおもしろい授業求めているのが1位であったことに意外性を感じた。授業も一種の商品であり消費者に対するサービスであるという時代になってきたのかもしれない。

次に、「文法だけでなく役に立つ実用英語」を「いそがないで丁寧に分かりやすく」、「中高の形式ばった英語でなく、問題を解くテクニックでなく、中高と違った授業」を求めている気持ちも分

かる。

また, ⑪, ⑫, ⑮, ⑰, ⑱, にみられるように, 「まちがっても怒らないで欲しい。」「テストをやさしくして欲しい」「単位をください」「授業を早めに終わって欲しい」「あてないで欲しい, 本を読ませないで欲しい」など, 現代っ子らしい要望は, まことに痛快である。

8 あなたは, 大学の英語の教師にどうあって欲しいと思いますか。2つ以上記入してください。

- ①明るく, やさしく, 気迫のある教師 (ジョーク, しゃれの分かるユーモアのある, かたくるしくなく, 楽しい夢中になれる授業をする。) 71
- ②分かりやすい授業のできる教師 (いきなり難しいものでなく易しいものから, ていねいにゆっくりと, 下位の者も分かりやすく, 納得ゆくまで, 日本語と英語を適当に交えて教える。) 54
- ③一人一人を大切に (それぞれの能力に応じて, 特徴をつかんで, 進学校だけでなく職業系の学校から来た人もあきらめないで, これくらいのこともわからないのかと, できなくともバカにしないで, 学生のいいところを認めて個人的にも指導してほしい。) 24
- ④怒らない。(ガミガミ言わない。押しつけない。叩かない。) 16
- ⑤理解してくれる。(一人一人の名前をおぼえて, 相談ののってくれる, 質問しやすい, 全ての人と話しやすい, とりつきやすい, しかも干渉しすぎない, 一方通行でなく, 学生の意見を尊重する, 立場をよく理解する。) 14
- ⑥専門的な知識だけでなく (広い知識を身につけて,) 体験談をすべての分野にわたって教えて欲しい。 11
- ⑦教師だけしゃべる, 一方的な指導でなく, 多くの人に指名し, 皆で授業をつくれるような教師, 生徒に自主的に参加させる教師。 9

- ⑧テストだけで判断しないで出席, 授業態度を考えて評価して欲しい。 8
- ⑨知識を自慢する教師がいるがやめて欲しい。きどらないで欲しい。 5
- ⑩正しい発音で, すっきりした大きな声で教えて。 4
- ⑪板書をきれいに。 3
- ⑫受験中心の中・高の教師と違った教師。 3
- ⑬休講などできるだけしないで欲しい。 2
- ⑭手をぬいて欲しくない。 1
- ⑮宿題を少なく。 1
- ⑯あてないで欲しい。 1
- ⑰たばこを吸わないで, お酒を飲まないで。 1
- ⑱テストをやさしく。 1

学生の授業に期待するものが, 「分かる授業」でなく「面白い授業」であることからして教師に期待するものが「明るく, やさしくユーモアのある教師」が1位であることも当然のことといえる。もはや, 「誠実で, まじめで, 厳格で, 実力のある教師」を求めている時代ではないのである。一言でいうと, パフォーマンスのすぐれた教師を求めているようである。

そして, それでいて一人一人を理解して, 一人一人を大切に, コミュニケーション能力を育ててくれる教師を求めている。

9 あなたは, 現在の自分の英語の力をどのように評価していますか。

- ①高校時代トップレベルで, 自信がある。 1 (1%)
- ②高校時代中位程度で, 普通である。 65 (37%)
- ③高校時代下位で, 自信がない。 69 (39%)
- ④「猫に小判」というように, 全くだめである。 41 (23%)

中・高時代にスポーツに明け暮れた学生であると思うとき, このデータは当然だろうと思う。しかし, 英語の力に自信がある学生が, もっといて

もいいのではと思う。「猫に小判」というように全く駄目である学生が41人（23%）もいる。英語の学力診断テストの結果からしても、このデータは信憑性^{しんびょう}がある。これから、このような学生を対象にして英語を指導しなければならないと思うとき、指導の難しさを痛感する。しかし、このような学生こそ国際競技大会等参加する機会も多く、英語が必要になると思うとき、コミュニケーション能力を育て国際性を身につけられるような指導を充実したいと思う。

10 あなたは、単位認定のための評価はどうあるべきだと思いますか。

- | | |
|--|-----------|
| ①テストの成績だけで決める。 | 9 (5%) |
| ②テストとレポート及び平常テストの成績で決める。 | 11 (7%) |
| ③テストとレポート及び平常テストの成績、並びに出席点で決める。 | 32 (18%) |
| ④テストとレポート及び平常テストの成績、並びに出席点、それに興味関心、意欲、授業態度等、総合的に評価して決める。 | 124 (70%) |

今、学校教育は大きな転換期を迎えようとしている。小・中・高の学習指導要領改訂により、受動的学習から能動的学習へ、知識の学習から脱して、自ら学ぶ意欲を持って課題解決に当たれる力を養うことが求められている。つまり、「知識・理解」第一主義の教育から、社会の変化に対応できる能力の育成を目指し、物事に創造性をもって柔軟にあたっていける学力ということで「意欲・関心・態度」を尊重するよう転換が図られている。

このようなとき、評価の在り方にも当然変容が求められている。今までの評価はどちらかというと結果に対し行われてきた傾向が強かった。これからは指導と評価は一体という考えに立脚して、生徒の興味・関心を高め、学習意欲の向上に役立つ評価が強調される必要があると思う。

学生が、「テストとレポート及び平常テストの成績、並びに出席点、それに興味・関心、意欲、

授業態度等、総合的に評価して決める」ことに評価のあるべき姿として70%も希望しているのは、蓋し当然といえる。

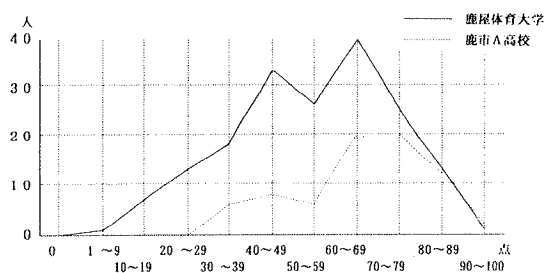
11 その他、意見がありましたなら、自由に書いてください。

- ・自分は、本当に英語ができません。推薦でこの大学に入ったので一般の人と同じ授業じゃついていけない。こんな英語の苦手な人も見捨てないで教えて下さい。
- ・商業高校出身のため、一般科目はほとんどさわり程度しか学んでいません。高校での英語はリーダーとかグラマーとかでなくて、中学校程度でした。
- ・県内でトップの進学校に入り毎日のように文法重視の受験英語が繰り返されました。そして勉強のレベルと速さについていけず完全に落ちこぼれてしまいました。
- ・英語は小学校6年生から習い始めて、中学校の頃は好きだったのですが、高校になって、先生があまり好きではなかったのが、嫌いになりました。
- ・英語は以前成績が悪かったけど、好きなので大学からしっかり学んでいきたい。生まれかわったつもりで、いちからスタートしたい。
- ・全く英語ってだめな自分ですが、精一杯頑張ろうと思います。ですから、この人は駄目だとあきらめないで下さい。
- ・頑張りたいという気持ちはあるが、たぶんついていけなくなるような気がする。
- ・自分は高校の頃、英語を完全に嫌いになり、ほとんど教科書、辞書類を開いたことはありませんでした。こんな自分をはたして英語の授業についていけるでしょうか。
- ・受験英語のような英語にはしないで下さい。
- ・自分は中・高と部活ばかりで英語の勉強をおこたったので基礎からわかりやすく教えて欲しい。

II 部 英語の学力診断テスト

1 成績度数分布

	鹿屋体大		鹿市A高校	
	人数	%	人数	%
90~100	1	0.5	2	2.4
80~ 89	13	7.4	12	14.3
70~ 79	25	14.2	20	23.8
60~ 69	39	22.2	20	23.8
50~ 59	26	14.8	16	19.0
40~ 49	33	18.8	8	9.5
30~ 39	18	10.2	6	7.1
20~ 29	13	7.4		
10~ 19	7	4.0		
1~ 9	1	0.6		
0	0	0		
計	176		84	



2 得点平均と得点率

問題番号	配点	鹿屋体大		鹿市A高校	
		得点平均	得点率	得点平均	得点率
1	27	11.3	41.9	13.8	51.1
2	16	9.8	61.3	11.0	68.8
3	16	7.5	46.9	10.3	64.4
4	16	10.9	68.1	12.8	80.0
5	25	14.2	56.8	17.0	68.0
総合	100	53.7	55.0	64.9	66.5

本学だけの学力調査では、実態が正確に把握できないので、鹿児島市A高校でも実施し、比較検討することにした。A高校は、県立高校であるが、

俗に言う一流高校ではない。何をもって一流、二流と言うかによっても違うが、高校入学学力検査で、市内高校の中位程度、あるいはそれ以下としておく。

左記、成績度数分布と得点平均と得点率を一見するだけで、本学の実態は容易に分かるので、注釈をする必要はない。しかし、本学の実態の中で、49点以下が72人(40.9%)であることは、刮目に値する数値である。誤解してならないことは、これは学力(ability)の実態で学習能力(capacity)の実態ではないということである。かりそめにも、学習能力劣等な学生と考えてはならない。英語学習に関する意識調査に見られるように、学習能力はあっても、競技向上のために部活動に専念し、学業が疎かになったということである。このことを十分理解して、学生の指導に当たるべきである。

3 問題別誤答傾向

	鹿屋体大	鹿市A高校
[1] 問1 (1) ア	24 (13.6%)	10 (11.9%)
イ	23 (13.0%)	12 (14.3%)
エ	55 (31.3%)	19 (22.6%)
(2) ア	16 (9.0%)	6 (0.1%)
ウ	34 (19.3%)	14 (16.7%)
エ	47 (26.7%)	18 (21.4%)
問2 無解答	31 (17.6%)	15 (17.9%)
誤答	97 (55.1%)	51 (60.7%)
問3 ア	44 (25.0%)	17 (20.2%)
ウ	20 (11.4%)	12 (14.3%)

[2] 1	27 (15.3%)	14 (16.7%)
2	53 (30.1%)	24 (28.6%)
3	154 (87.5%)	66 (78.6%)
4	30 (17.0%)	4 (0%)

誤答例 I many 2 player, playing, pianest 3 hear (d), listen, told, said, hearing, spoken, called, talked, write, 4 good, enjoy

[3] 1	65 (36.9%)	26 (30.1%)
2	130 (73.9%)	37 (44.0%)
3	108 (61.3%)	49 (58.3%)

	4	77 (43.8%)	10 (11.9%)
誤答例	1	far, about, time, many, soon, minute, take	
	2	strange, strenge, strengere, strong, near, around, few, museum	
	3	not, connected, busying, closed, cut, speaking, over, using, broken, used, hard, lost, heavy	
	4	to, forget, for	

[4]

	1	45 (25.6%)	15 (17.9%)
	2	61 (34.7%)	19 (22.6%)
	3	66 (37.5%)	28 (33.3%)
	4	47 (26.7%)	4 (0 %)
誤答例	1	studing, studied, studies	
	2	winner, have won, win, winning to wink, did win	
	3	fixing, fexed, fix, fixes, to fix	
	4	to speak, speaking, sporken	

[5]

- 1 良好な出来であった。
- 2 Where do you live in (on)?
Where are you live now? etc.
- 3 I like apple better than orange.
I like better apples than oranges.
- 4 I like apples than oranges. etc.
- 5 It will be rain tommorrow.
Tomorrow will be rain.
It is rain tommorrow. etc.

3 考 察

「英語学習に関する意識調査」及び「英語の学力診断テスト」に基づいて、本学1年生に授業を実施するに臨んで、次のように考えている。

(1) 学び方を学べる授業にすること。

中・高6年間、英語を学習しているにもかかわらず、英語の学習法を知らない学生が多いことはこの二つの調査からしても明白である。学生の中には、「どのように勉強したらよいか教えて下さい。」と相談に来る人もいる。したがって、授業をとおして英語の学び方が学べるよう

な指導をすることにしてはいる。学生が授業に積極的に参加し、一単位時間の授業の流れにおいて、どのように授業が計画されているかを認識でき、効率ある学習ができれば、英語の学習法は当然体得できることになる。

(2) 基礎的・基本的事項を踏まえて、発展的、応用的事項を学習できるようにすること。

この二つの調査から分かることは、英語の学習法を知らないということと同時に、英語の基礎的・基本的事項が定着していないということである。大学生に、今さら中・高校程度の基礎的・基本的事項をと思うが、「英語に自信がない。そしてこれから英語の学力を身につけることができるかどうか、それも自信がない。しかし、生まれ変わったつもりで、いちからスタートしたい。」という学生一人一人の心の叫びを思うと、基礎・基本を踏まえて大学生らしく、発展し応用ができるように指導したいと思っている。

(3) 音声指導を重視し、口頭で言えるように、また、読めるようにすること。

授業をとおして、一番強く感ずることは、発音できない、読めないということである。英語を発音できない、読めないということ、英語を聞くこともできないということである。もっとも、聞くことができないから、口頭で言えないのであるが、したがって、発声指導 (the mastery of the sound system)³⁾に、重点を置きながら、語い、語法、内容理解等の指導に当たることにする。

(4) コミュニケーション能力を育てる授業にすること。

大学における一般教育としての授業は、もはや小説や詩あるいはその作家についての講義、講読であってはならない。コミュニケーション能力そのものを育てる指導でなければならないと思う。学生が大学における英語教育に希望するのもコミュニケーション能力である。

ここでいうコミュニケーション能力とは、「実践的な能力」である。すなわち、知識と実際の伝達の中で知識を使用する技能を一体とし

て考える必要がある。

Canale, Swain⁹理論に基づいて、中・高の学習指導要領を参考にし、大学英語教育のコミュニケーション能力を述べるならば、①語句や文の発話を文法的に処理する能力 (Linguistic competence 文法能力) ②典型的な言語機能に適切に対応する能力 (Socio-linguistic competence 社会言語学習能力)、③まとまった文章の概要や要点を処理する能力 (Discourse competence 説話能力) ④意思伝達が困難なとき、他の語や表現を使用したり、身ぶりなどで示したりして、積極的に意思を伝えようとする能力 (Strategic competence 方略的能力) である。コミュニケーション能力を育てるとは、以上4つの能力を育てるということになる。

(5) 異文化理解・国際理解を図る授業にすること。

意識調査にも明確にされていることだが、中・高における新学習指導要領にも明確にされている。

この事は、言語の構造や表現は、その文化に根ざしたものであるもので、日本語や外国語(英語)の類似点や相違点を学習することが、日本や外国の文化に対する関心を深め、国際理解に結びつくという考え方である。

文化について、Allen and Vallet¹⁰は“Culture with a big CとCulture with a small c”の2通りに大別している。前者は教養文化、後者は生活文化と解釈することができる。英語教育で異文化理解を扱う場合の文化は後者、すなわち“a set of habitual and customary ways of behavior of the people of a society”といえる。文化をこのように考えると、言語は生きた文化の中から生まれたものであり、言語教育には文化の理解が不可欠である。

異文化理解・国際理解教育を実施するとき重要なことは、彼我の文化に価値観の優劣はないということである。もし、英語国民の文化が優れており、自国の文化や第三世界の文化が劣っていると、直接的でなくとも間接的に教えることがあるとすれば、その指導は、国際理解に貢献するどころか、マイナスの役割を果たすこと

になる。

(6) 人間形成を図る授業にすること。

小、中、高、大、校種を問わず、学校教育の目的は人間形成である。大学における英語教育の究極の目標も、当然、人間形成であり、全人教育に他ならない。したがって、指導内容そのものも人間教育に資するものでなければならぬし、指導そのものも、学生の心の琴線に触れるようなもので、学生が深く感動するようなものでありたいものである。英語教育も人間の生き方、在り方を学ぶにふさわしいものでなければならぬのである。

このような考え方に立って筆者は、担当する平成4年度の英語Ⅰ、英語Ⅲの授業の目的を次のように設定した。

英語Ⅰ

- 1 総合的に英語力 (English Abilities) の向上を図る。
- 2 更に、表現力・言語能力 (Communicative Competence) を養い
- 3 異文化理解を深め、国際理解の視野を広める。
- 4 そして、知識や技能の習得にとどまらず、幅広く豊かな人間形成を目標とする。

英語Ⅲ

- 1 英語Ⅰ、英語Ⅱを基礎にして、更に、英語力 (English Abilities) の向上を図る。
- 2 特に、読解力を養うことにする。
- 3 広く、情報を集め、特にスポーツに関する情報について理解を深め、国際理解の深化を図る。
- 4 そして、知識や技能の習得のみならず全人的人間形成を目標にする。

これは(下線部)、意識する、しないに拘らず、誰も行っていることであるが、明確に意識して授業をする必要がある。

4 あとがき

鹿屋体育大学の入学者は、およそ推薦入学が45%で、一般入試による入学者が55%である。一般入試による入学者も中・高在学中に部活動に明け

暮れたものが殆どであろうと思われるが、まして推薦入学者の場合、部活動一本で、教科学習は殆ど犠牲になっている。英語の学習についても同じである。学習らしい学習は殆どやっていないというのが実情である。学力の個人差も極めて著しい。このことは、この英語学習に関する二つの調査が如実に物語っている。

学生の実態を十分踏まえると同時に、上に述べられている学生の心情を十分理解して、一人一人を大切にして、効率の高い指導を実践したいものである。

文 献

- 1) Allen, Edward David and Rebecca M. Valette :
Modern Language Techniques : A Handbook, Har-
court Brace Jovanovich, Inc.
- 2) Canale and Swain : Theoretical Bases of Commu-
nicative Approaches to Second Language Teaching
and Testing, Applied Linguistics 1
- 3) Charles C. Fries : Teaching and Learning English
as a Foreign Language pp. 1~11
- 4) 高等学校学習指導要領解説 (外国語編) pp. 6 ~ 7 文
部省
- 5) 松畑 熙 : 学習者中心の英語教育. pp. 191~216 大修
館

(資料)

鹿屋体育大学入学おめでとうございます。皆さんは大学生としての一步を踏み出したわけですが、4年間充実した生活を送られるように願っています。

外国語学習については、卒業までに9単位を選択履修しなければなりません。そのために中学・高校に引き続いて外国語を履修することになります。ついては、外国語学習を実りあるものにするために、皆さんの実態を十分理解しておく必要があります。

これからⅠ部：アンケート調査、Ⅱ部：語学力の診断をいたしますので、ご協力ください。

Ⅰ部：アンケート調査

次の質問について、記号を○で囲んでください。また、意見などを求めているものには具体的に、簡潔に箇条書で答えてください。

性別：男・女 (○で囲んでください)

1 あなたは、英語の学習をいつ頃から始めましたか。 (記入例) 小2から。

2 あなたは、英語が好きですか、それとも嫌いですか。

ア 好き イ 嫌い ウ どちらともいえない

3 2で「好き」と答えた人は、次の質問に答えてください。

(1) いつ頃から好きになりましたか。 (記入例) 中3の2学期から。

(2) 好きになった主な理由は何ですか。1～2つ記入してください。

① _____

② _____

(その他) _____

4 2で「嫌い」と答えた人は、次の質問に答えてください。

(1) いつ頃から嫌いになりましたか。

(2) 嫌いになった主な理由は何ですか。1～2つ記入してください。

① _____

② _____

(その他) _____

5 あなたは、これから、どんな目的で英語を学習したいと思いますか。1つ記入してください。

(記入例) 外国で仕事をしたいので、英語を身につけたい。

(その他、あれば書いてください) _____

6 あなたは、英語学習の分野で、次の中どれを最も身につけたいと思いますか。

(1つだけ○をつけてください)

ア 読む力

イ 書く力

ウ 聞く力

エ 話す力

7 あなたは、大学の授業に何を期待していますか。英語の授業はこうあって欲しいということを2つ以上記入してください。

① _____

② _____

(他) _____

8 あなたは、大学の英語の教師にどうあって欲しいと思いますか。2つ以上記入してください。

① _____

② _____

(他) _____

9 あなたは、現在の自分の英語の力をどのように評価していますか。

ア 高校時代トップレベルで、自信がある。 イ 高校時代中位程度で、普通である。

ウ 高校時代下位で、自信がない。 エ 「猫に小判」というように、全くだめである。

10 あなたは、単位認定のための評価はどうあるべきだと思いますか。

ア テストの成績だけで決める。

イ テストとレポート及び平常テストの成績で決める。

ウ テストとレポート及び平常テストの成績、並びに出席点で決める。

エ テストやレポート及び平常テストの成績、並びに出席点、それに興味関心、意欲、授業態度等、総合的に評価して決める。

11 その他、意見がありましたら自由に書いてください。

II : 英語学力診断テスト (問題)

* 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

【1】 次の英文を読んで、設問に答えなさい。(27)

Young people sometimes criticize their parents and feel that in most cases their parents are wrong. They complain about their parents' ways of thinking and feelings. They say that parents cannot understand children's modern ways and that parents have no sense of humor, (1) about parent-child relationship.

I think parents often forget how they felt when they were young. When my future wife, Jane, and I told our parents that we wanted to get married and that Jane would support us by getting some kind of job, though she had no training, they were very surprised. At that time I was a student of a medical school and had no hope of earning money enough to support ourselves for five more years. They said, "But you can't live on a salary like that!" We thought they were quite timid, but (2) they said, "If you two wish to get married so much, you may."

A few years ago my son got married just before finishing university. We were surprised when he said, "I've decided to become a school teacher." We said, "But schoolteachers' salaries are not so high now. You can't live on a salary like that! We can't agree." I was sure that he and his wife thought we were quite timid.

Usually parents are worried about things their teenage children may do, because they still remember the troubles they themselves had. They have heard a lot about the troubles of young people. They are afraid most of the things that happen will be bad.

問1 文中の空所(1), (2)に入る最も適切なものを, 次のア~エの中から選び, 記号で答えなさい。

ア at first イ in the end ウ at least エ one another (5×2=10)

問2 親が自分達の十代の子供達がすることについて, 心配するのは何故ですか。25字程度の日本語で書きなさい。(7)

問3 本文の内容と合っているものを, 2つ選んで, 記号で答えなさい。(5×2=10)

ア Young people should not tell their parents about their modern ways of thinking, because they are timid.

イ When the writer decided to get married, Jane wanted to work and help her future husband.

ウ It was easy for the writer to support his family because he was a doctor.

エ At first the writer thought that his son should not become a schoolteacher because schoolteachers didn't earn enough money.

オ Parents sometimes disagree with their children because they haven't experienced the same feelings as their children have.

【2】 次の各組の英文がほぼ同じ意味になるように, ()に入る適当な英語を1語づつ書きなさい。

1 What is the price of this car? = How () is this car? (4×4=16)

2 Tom plays the piano very well. = Tom is a very good ().

3 I have not heard from Mary. = Mary has not () to me.

4 We enjoyed ourselves at the party. = We had a good () at the party.

